

16 耳鼻科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

耳鼻咽喉科疾患の診断と診療に必要な知識および診察方法を習得する。

II 経験目標 (SBO s) (各項目の※は必修項目、)

A 経験すべき診察法・検査・手技

1. 基本的な身体診察法

頭頸部の診察(外耳道、中耳、鼻腔、口腔、咽頭の観察)ができ、記載できる。

2. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

鼻出血に対する圧迫止血法を実施できる。※

B 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状

1) 聴覚障害

2) 鼻出血

3) 嘔声

4) めまい ※ R

5) リンパ節腫脹 ※ R

2. 緊急を要する症状・病態

1) 急性感染症(扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎)

2) 誤飲、誤嚥

3. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者(合併症含む)で自ら経験すること

1) 中耳炎 ※ (B)

2) 急性・慢性副鼻腔炎

3) アレルギー性鼻炎 ※ (B)

4) 扁桃の急性・慢性炎症性疾患

5) 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭の代表的な異物

III 方略 (LS)

1. 研修の場は耳鼻咽喉科外来・手術室である。

2. 新患については可能な限り、予診を担当して一通りの診察を行い、その結果や所見をカルテに記載する。

3. 可能な場合は喉頭ファイバー・鼻咽腔ファイバーの施行方法を習得する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土 (第1のみ)
午前	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後	入院患者診察の研修、 外来検査・ 外来手術の 研修	入院患者診察の研修、 外来検査・ 外来手術の 研修	入院患者診察の研修、 外来検査・ 外来手術の 研修	手術室での 手術研修	入院患者診察の研修、 外来検査・ 外来手術の 研修	

指導体制

責任指導医：植田広海

上級医：小川高生、浅井久貴

病棟師長：夏目和代

IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。